※令和４年度以降入学生用

学校番号	3015

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書	「最新　数学Ⅰ」　（数研出版）						
副教材等	書き込み式シリーズ【基本～標準】教科書傍用 パラレルノート 数学Ⅰ　（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業用のノートやプリントで授業を進めます。
・様々な法則や公式の説明及びそれを使った問題の解き方を説明します。授業用のノートやプリントにしっかりとまとめ、理解してください。
・授業中に出題する問題を自分で解いていきましょう。ただ答えを求めるだけでなく、途中式や考え方をきちんと書くようにしましょう。また、各自答え合わせをしてください。答え合わせは、自分がどこでつまずいたかを知るための大切なものです。
・定期考査ごとに配布する対策プリントにしっかりと取組みましょう。
・パラレルノート 数学Ⅰは定期考査ごとや単元の切れ目等に提出してもらいます。

2　学習の到達目標

数と式、図形と計量、2 次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数と式、図形と計量、2 次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理･法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現･処理したりする技能を身につけるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	第1章 数と式	第１節　数と式 １　多項式 ２　多項式の加法・減法・乗法 ３　展開の公式 ４　式の展開の工夫 ５　因数分解 ６　いろいろな因数分解	a：乗法公式、因数分解の公式の意味や複雑な式が簡単に帰着できることを理解するとともに、式を目的に応じて変形することができる。 b：学習した計算方法と関連付けて、式を多面的に考察することができる。 c：式の特徴に着目して複雑な式の因数分解に取り組もうとする。	単元ﾃｽﾄ 定期考査	単元ﾃｽﾄ 定期考査 提出ﾉｰﾄ	観察 提出ﾉｰﾄ
		第２節　実数 ７　実数 ８　根号を含む式の計算	a：中学校までに取り扱ってきた数を実数としてまとめ、理解している。 b：自然数，整数，有理数，実数の各範囲で、四則計算について考察できる。 c：今まで学習してきた数の体系について整理し，考察しようとする。	単元ﾃｽﾄ 定期考査	単元ﾃｽﾄ 定期考査 提出ﾉｰﾄ	観察 提出ﾉｰﾄ
		第３節　１次不等式 ９　不等式 10　不等式の性質 11　１次不等式の解き方 12　連立不等式 13　不等式の利用	a：１次不等式の解を求めることができる。 b：不等式の理解を深め、式を多面的に捉えて問題を考察することができる。 c：日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、１次不等式を問題解決に活用しようとしている。	単元ﾃｽﾄ 定期考査	単元ﾃｽﾄ 定期考査 提出ﾉｰﾄ	観察 提出ﾉｰﾄ ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ課題
	第2章 実数	１ 集合と部分集合 ２ 共通部分，和集合，補集合	a：集合と命題に関する基本的な概念、原理、法則などを理解し、知識を身につけている。 b：ベン図などを用いて集合の考えを論理的に考察することができる。 c：集合について、それぞれの特徴や関係に合った表現方法を考察し、興味・関心をもつ。	単元ﾃｽﾄ	単元ﾃｽﾄ 提出ﾉｰﾄ	観察 提出ﾉｰﾄ

※令和４年度以降入学生用

前期	第3章 2次関数	第１節 2次関数とグラフ 1 関数 2 関数とグラフ 3 y＝ax^2 4 $y = ax^2 + q$のグラフ 5 $y = a(x - p)^2$のグラフ 6 $y = a(x - p)^2 + q$のグラフ 7 $y = ax^2 + bx + c$のグラフ 8 2次関数の最大･最小	a：２次関数のグラフと関数の値の変化における基本的な概念を理解し、最大値や最小値を求めることができる。 b：日常の事象や社会の事象を数学的に捉え、問題を解決したり考察することができる。 c：２次関数とそのグラフを用いることの有用性を認識し、値の変化や２次方程式･２次不等式の考察に活用しようとしている。	単元ﾃｽﾄ	単元ﾃｽﾄ 提出ﾉｰﾄ	観察 提出ﾉｰﾄ ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ 課題
後期	第3章 2次関数	第２節 ２次関数と２次不等式 10 ２次方程式 11 ２次関数のグラフとｘ軸の共有点 12 ２次不等式	a：２次関数のグラフと関数の値の変化における基本的な概念を理解し、２次方程式・２次不等式の解を求めることができる。 b：日常の事象や社会の事象を数学的に捉え、問題を解決したり考察することができる。 c：２次関数とそのグラフを用いることの有用性を認識し、値の変化や２次方程式･２次不等式の考察に活用しようとしている。	単元ﾃｽﾄ 定期考査	単元ﾃｽﾄ 定期考査 提出ﾉｰﾄ	観察 提出ﾉｰﾄ
	第4章 図形と計量	第１節 三角比 1 鋭角の三角形 2 三角比の利用 3 三角比の相互関係 4 三角比の拡張 5 三角比が与えられたときの角	a：鋭角の三角比の意味と相互関係を理解し、他の三角比の値や鈍角の三角比の値を求めることができる。 b：図形の構成要素間の関係を三角比に用いて表現するとともに、三角比の性質や相互関係を考察することができる。 c：三角比を用いて直接測ることのできない長さや角度が求められることに関心をもち、事象の考察に活用しようとしている。	単元ﾃｽﾄ 定期考査	単元ﾃｽﾄ 定期考査 提出ﾉｰﾄ	観察 提出ﾉｰﾄ
		第２節 正弦定理･余弦定理 6 正弦定理 7 余弦定理 8 三角形の面積 9 図形の計量	a：正弦定理、余弦定理を理解し、それを用いて平面図形や空間図形の計量をすることができる。 b：図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象を数学的に捉え、問題を解決したり、考察することができる。 c：正弦定理、余弦定理の有用性を認識し、平面図形や空間図形の計量に活用しようとしている。	単元ﾃｽﾄ 定期考査	単元ﾃｽﾄ 定期考査 提出ﾉｰﾄ	観察 提出ﾉｰﾄ

※令和４年度以降入学生用

後期	第5章 データの分析	1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばり	a: データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行う方法を理解し、それを求めることができる。 b: データの散らばり具合・データの分布を比較することができる。 c: 分散、標準偏差、データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察しようとする。	単元ﾃｽﾄ	単元ﾃｽﾄ 提出ﾉｰﾄ	観察 提出ﾉｰﾄ ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ 課題

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度